堤高約96㍍リートダム1㍍）を建容量は約2で、洪水調20万立方ートを閉め貯め、洪水安全な量だ。足羽川と川の下流地軽減が期待

水建設・大、1期後の する。本体採から始ま向けた基礎骨材プラン設置し、基コンクリー

川の洪水をダめの導水ト、水海（みの導水トン・7キロ、径期工事（施が完了。引き間の2期工事ハザマ）が進事業費は約1将来はダム湖谷川、赤谷川トンネルの整

避難誘導システム実証試験

ポートアイランド1期地区（神戸市中央区港島中町）で15日、住民参加型の「港島地区総合防災訓練」（主催＝港島自治連合協議会ら）が行われ、神戸市が導入を進める最新の避難誘導システムの実証試験が同時に実施された。今回はジャパックス（大阪府吹田市）が開発した「スマート避難訓練」、日本コンピューターネット（大阪市北区）が手掛けるドローン（小型無人機）による避難誘導の2事例を試行導入。訓練では本番さながらに避難行動のデモンストレーションを行った。

訓練の参加対象は神戸新交通中公園駅周辺に住む約1・5万人の住民。主催する地元協議会を神戸市が支援するかたちで実施した。この日、午前9時35分に津波が発生した想定で住民が自宅から中公園（港島中町4）に向かって避難を開始。最初に日本コンピューターネットのドローンが上空から、搭載したスピーカーで住民に避難行動を呼び掛け誘導した。

避難に用いられたジャパックスの「スマート避難訓練」はスマートフォン画面で現在位置と周辺の被災状況をリアルタイムで地図上に示し、避難先に誘導するシステム。区域内に設置されたモニタリングカメラからの画像も確認できる。位置情報と連動した避難誘導は国内初の事例となる。

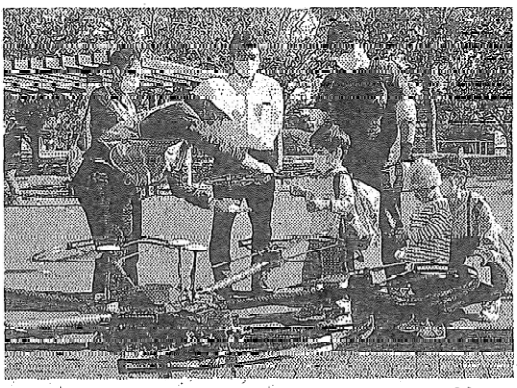
中でも、空間データを20㍍×20㍍のブロックごとにグリッド化し連携する基盤技術「Cube Earth」を採用しているのが最大の特長。各省庁や自治体が個別に保有する空間情報をグリッドにひも付けすることで、データベース化し一元管理することができる。

ウェブ上の管理画面からは避難状況を一目で確認でき、年齢や性別など個人情報を基に避難の遅い住民に個別メッセージを送信することも可能。同社の浅田淳常務取締役は「避難行動を根付かせるために、システムを通じて住民にリアル感を持たせる必要があった。今後はハザードマップと連動させて、より地域の実情に即したツールに実装していきたい」と話す。

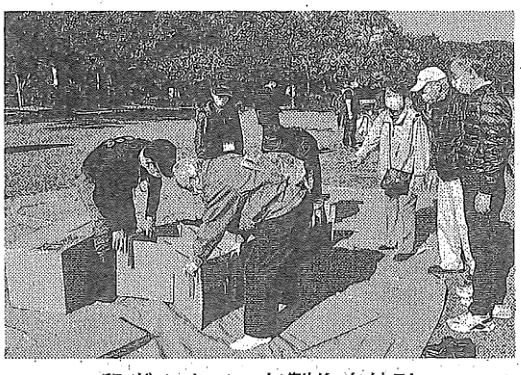
試験を行った両社の技術は神戸市が取り組む先進技術の導入プロジェクト「Be Smart KOBE」に事業採択されている。

避難訓練を終えた後、住民らは神戸市消防局・水道局など担当者らの指導の下、応急飲料水の確保や救命措置、消火活動、段ボールベッド作りなどを体験。日頃の防災意識について改めて考える機会となった。

避難誘導ドローンを見学



ポーアイ地区防災訓練 神戸市ら ジャパックスなど2件



段ボールベッド製作を体験

5橋設計WTO公告

西日本高速関西支社 新名神紫香楽橋など

西日本高速道路関西支社は16日、「新名神高速道路紫香楽橋他4橋橋梁設計業務」の公募型競争入札（WTO対象）を公示した。

12月2日まで参加表明書を受け付ける。技術提案書の提出期限は2021年1

ている者。

加算方式の総合評価方式。配置予定技術者の資格・実績などや成績・表彰、業務実施方針と手順を審査し算出した技術評価点（最大100点×2）に、価格評価点を加えた合計点で落札者を決定する。

業務内容は、新名神高速道路甲賀土山IC～大津JCT間の6車線化に伴い、紫香楽橋下り線、洗谷橋下り線、掛ケ谷橋下り線、五本松橋下り線、黒政橋上下線の橋梁拡幅に関する上部工基本設計を実施する。業務場所は滋賀県甲賀市甲南町杉谷～信楽町黄瀬。履行期間は450日間。

1920の54。工期は2022年12月26日。実施設計は梓設計が担当した。

鉄筋結束や壁塗り体験

関西鉄筋工業協組ら 修成建設専で出前講座

関西鉄筋工業協同組合（岩田正吾理事長）と大阪府左官工業組合（邑智保則理事長）は13日、大阪市西淀川区の修成建設専門学校科の学生で、参加を希望した27人が鉄筋の結束と壁塗りを体験した。

両組合による合同出前講座は「より多くの職種体験による建設業界の魅力発信」を目的に2016年度から実施。これまでは複数の学校を同一会場に集めていたが、本年度は希望のあった学校に赴いて開催した。

開会に当たり、大阪府左官工業組合の邑智理事長が

てほしい」とあいさつした。

続いて関西鉄筋工業協同組合の森山直樹副理事長が安全面の注意事項や作業の概要などを説明した後、学生らは3班に分かれ、3級鉄筋技能検定課題の組み立て作業と壁材の塗り付け作業を体験。学生らは職人の指導に耳を傾けながら、それぞれの作業を楽しんだ。

同校専科2級建築十科の釜友知與子科長は、出前講座の効果について「体験す